

令和 4 年度春採湖ヒブナ調査報告書

釧路市立博物館

目的と概要

春採湖（国指定天然記念物「ヒブナ生息地」）に生息するヒブナの保護施策を講じる上で重要な知見を蓄積するための調査（1. ヒブナ産卵親魚目視カウント調査 2. ヒブナ・フナ産卵調査）を実施した。

1. ヒブナ産卵親魚目視カウント調査

1－1. 目的

春採湖のヒブナの産卵生態および毎年の産卵親魚数の動向を把握するため、実施した。

1－2. 調査方法

湖岸一円（全域）における目視カウント調査

6 月 22 日に湖岸沿いをボートで春採湖を一周しながら、産卵のために湖岸沿いに寄ってきたヒブナ親魚の目視カウントをおこなった。

1－3. 結果と考察

6 月 22 日に湖岸全域の目視カウント調査を実施したがヒブナ産卵親魚を確認することはできなかった。（図 1, 表 1）。確認できなかった理由の一つにマツモやリュウノヒゲモなどの水草の分布面積が過年度に比べて大幅に広がっているため、水草の存在により目視確認がしにくい状況になっている可能性が考えられる。

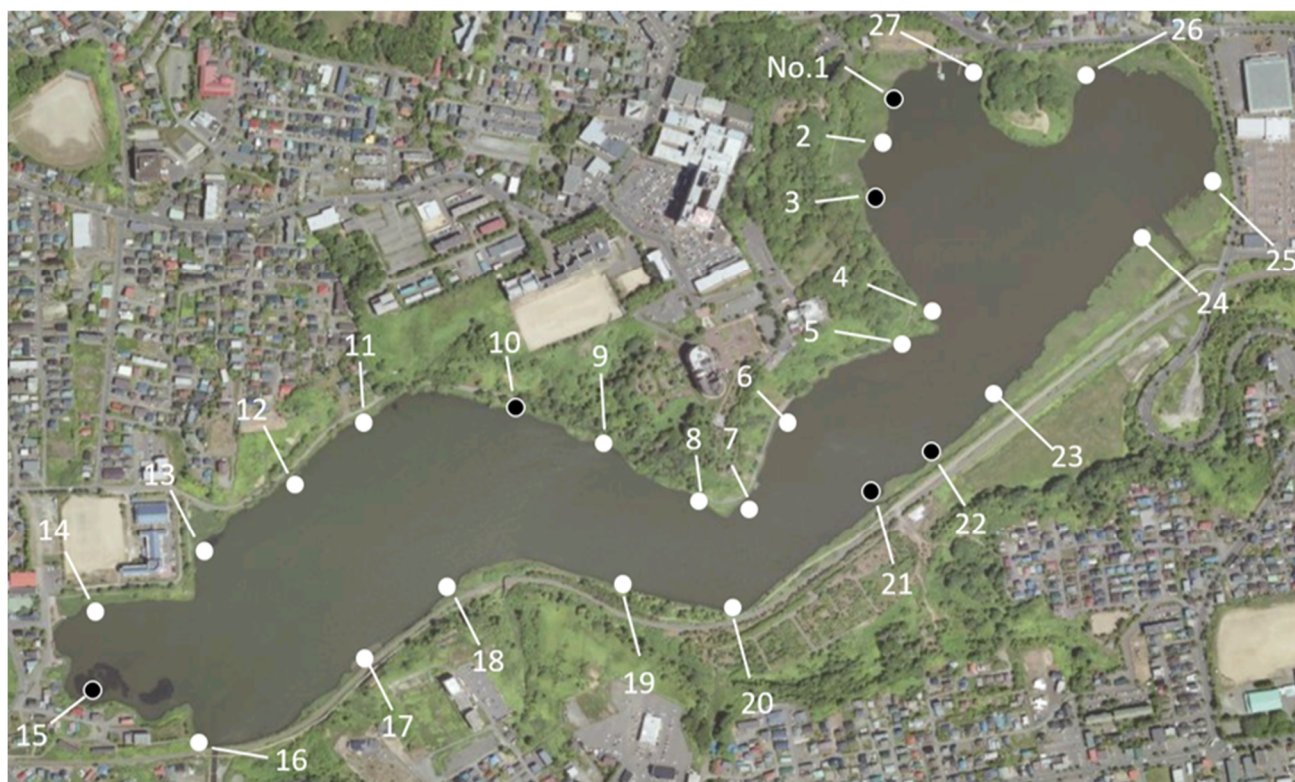


図 1. 2022 年 6 月 22 日に実施した春採湖におけるヒブナ・フナの産卵調査の地点。黒丸は産卵が確認された地点。

表 1. 平成 26 年～令和 4 年のヒブナ産卵親魚確認尾数（捕獲尾数、目視確認尾数）

調査年	目視確認尾数 （湖岸一円における目 視カウント調査結果）	のべ目視確認尾数 （定区、湖岸一円調査合計）	捕獲尾数 （定区、湖岸一円調査合計）
2014（平成 26）年	15	74	11
2015（平成 27）年	16	72	19
2016（平成 28）年	20	19	13
2017（平成 29）年	0	3	1
2018（平成 30）年	2	15	4
2019（令和元）年	3	実施せず	実施せず
2020（令和 2）年	1	実施せず	実施せず
2021（令和 3）年	2	実施せず	実施せず
2022（令和 4）年	0	実施せず	実施せず

※目視確認尾数は産卵盛期の 1 日に湖岸一円において目視カウントしたヒブナ尾数
（2021 年調査については 2 日間に分けて実施した）

表 2. 1984 年～2010 年の春採湖ヒブナ生息調査（地曳網調査）結果

調査年	ヒブナ捕獲尾数	フナ捕獲尾数
1984（昭和 59）年	237	36,417
1985（昭和 60）年	17	1,299
1986（昭和 61）年	112	5,271
1987（昭和 62）年	43	1,811
1988（昭和 63）年	3	373
1989（平成元）年	4	511
1990（平成 2）年	3	263
1991（平成 3）年	3	778
1992（平成 4）年	3	152
1993（平成 5）年	3	1,098
1994（平成 6）年	32	5,431
1995（平成 7）年	6	1,718
1996（平成 8）年	4	1,102
1997（平成 9）年	12	2,129
1998（平成 10）年	4	1,743
1999（平成 11）年	13	4,973
2000（平成 12）年	8	3,092
2001（平成 13）年	4	9,487
2004（平成 16）年	0	921
2007（平成 19）年	0	35
2010（平成 22）年	0	6

2. 春採湖のヒブナ・フナ産卵調査の結果について

2-1. 目的

春採湖のヒブナの産卵生態を明らかにし、文化財の保護を図るとともに、水質浄化の効果指標として、ヒブナ・フナの産卵状況を調査した。

2-2. 期日

令和 4 年 6 月 22 日

2-3. 場所

湖岸一帯において調査場所地点を設定し、産卵状況を調査した（図 1）。

2-4. 結果と考察

- (1) 6月22日の調査において、春採湖岸の北部の2地点（卵付着物：マツモ）と南部の4地点（卵付着物：マツモ、リュウノヒゲモ、ヨシの根等）で産卵を確認した。春採湖岸で観測した水温は6月上旬から上昇を続け、調査日（6月22日）にはヒブナ・フナの産卵に適した約20℃になっており、付着卵も確認できたことから産卵期間の範囲内と考えられる。
- (2) 近年減少していたヒブナ・フナの産卵巣であるリュウノヒゲモを6年連続して確認することができた（図1, 表3, 写真3）。
- (3) ヒブナ・フナの重要な産卵場であるマツモについては、春採湖レポート2020の植物部門水生植物調査で指摘されているように、湖内分布面積が2006年には絶滅寸前まで落ち込んだものの、2008年以降徐々に増加し、1986年当時のおよそ半分の面積にまで回復している（図3）。

表3. 2022年6月22日に実施した春採湖におけるヒブナ・フナの産卵調査の結果。午前11時48分の気温19.2℃。僅か：卵数3～4個／cm²、少量：卵数5～9個／cm²、多量：卵数10個以上／cm²。

調査地点	時刻	水温	水草等の種類	産卵状況	水草の種類と生育状況
No. 1	11:48	22.4	マツモ	少量	マツモ群落、ヨシ
No. 2	11:58	21.0	ヤラメスゲの根・茎	確認できず	ヨシ、ヤラメスゲ
No. 3	12:03	21.0	マツモ	少量	マツモ群落
No. 4	12:22	21.0	枯ヨシの茎	確認できず	ヨシ、フトイ
No. 5	12:26	21.2	枯ヨシの茎	確認できず	ヨシ、ヤラメスゲ
No. 6	12:37	21.2	ヤラメスゲの茎	確認できず	ヨシ、ヤラメスゲ
No. 7	12:48	21.4	スイレンの葉	確認できず	スイレン、ヨシ
No. 8	12:56	21.5	枯ヨシの茎	確認できず	ヨシ、ヤラメスゲ
No. 9	13:03	22.1	リュウノヒゲモ	確認できず	リュウノヒゲモ群落、マツモ断片
No. 10	13:18	22.2	リュウノヒゲモ	僅か	リュウノヒゲモ群落
No. 11	13:30	22.2	リュウノヒゲモ	確認できず	リュウノヒゲモ群落
No. 12	13:58	22.3	リュウノヒゲモ	確認できず	リュウノヒゲモ群落、ヨシ
No. 13	14:13	22.0	リュウノヒゲモ断片、マツモ断片	確認できず	リュウノヒゲモ断片、マツモ断片
No. 14	14:24	21.5	マツモ断片、	確認できず	マツモ群落
No. 15	14:38	23.0	マツモ	僅か	マツモ群落
No. 16	14:50	21.2	リュウノヒゲモ、ロープ	確認できず	リュウノヒゲモ
No. 17	14:58	22.1	エゾノミズタデの葉	確認できず	エゾノミズタデ群落
No. 18	15:05	22.0	枯ヨシの茎	確認できず	ヨシ
No. 19	15:13	21.3	枯ヨシの茎	確認できず	ヨシ
No. 20	15:20	21.0	枯ヨシの茎・根	確認できず	ヨシ
No. 21	15:28	22.0	マツモ（多）	多量	マツモ群落
No. 22	15:38	22.0	マツモ（多）	多量	マツモ群落
No. 23	15:47	22.2	マツモ（多）	確認できず	マツモ群落
No. 24	15:57	21.6	マツモ（多）	確認できず	マツモ群落
No. 25	16:04	23.0	マツモ（多）	確認できず	マツモ群落
No. 26	16:22	22.3	マツモ	確認できず	マツモ群落
No. 27	16:30	22.0	枯ヨシの茎	確認できず	ヨシ、フトイ

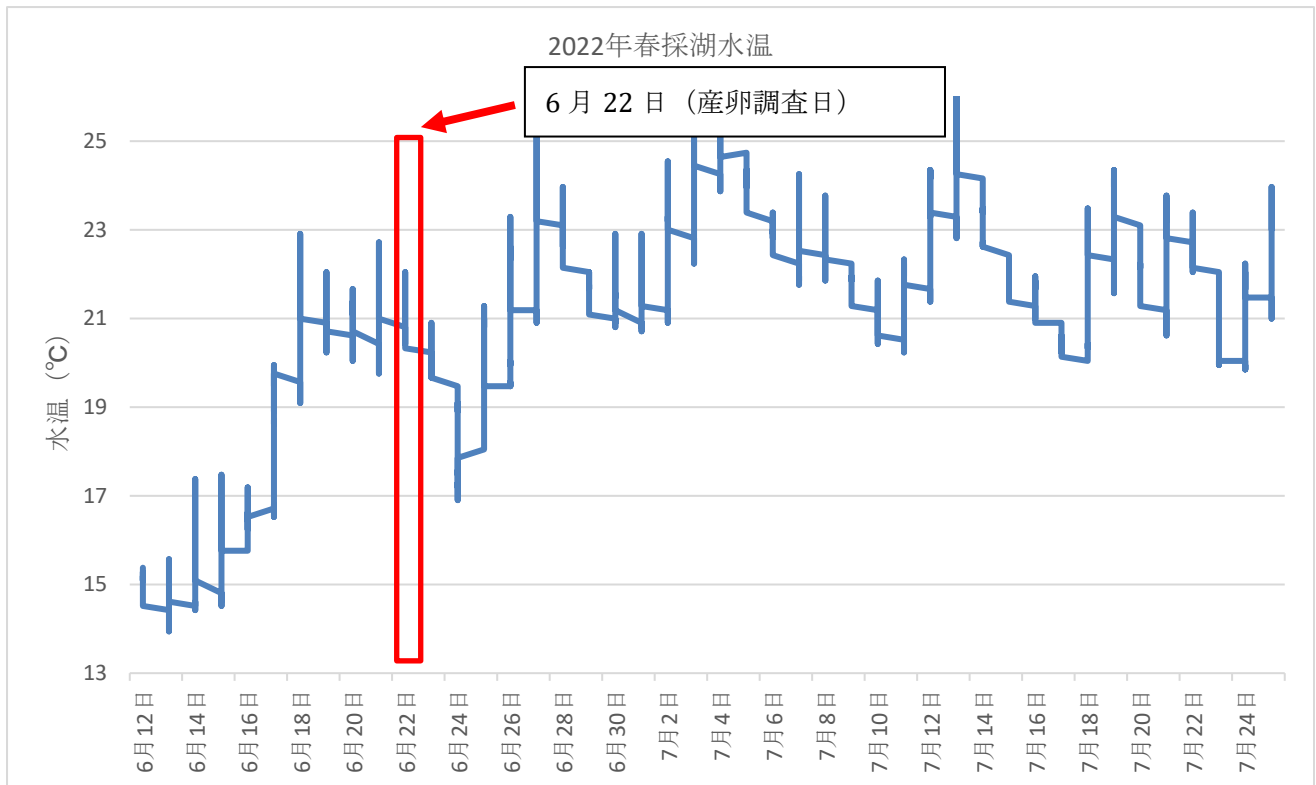


図2. 6月12日から7月25日までの春採湖岸・旧柏木小横（図2. のNo. 13 地点）における水温変化
（1時間間隔で自動水温記録データロガーにて計測）



写真1. マツモへのフナ・ヒブナ卵の付着状況調査

写真2. マツモに付着したフナ・ヒブナ卵（赤矢印）

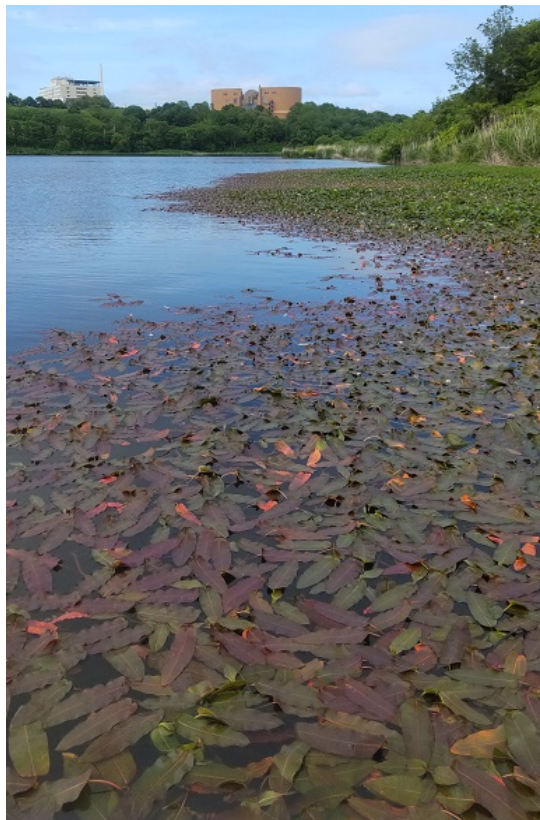
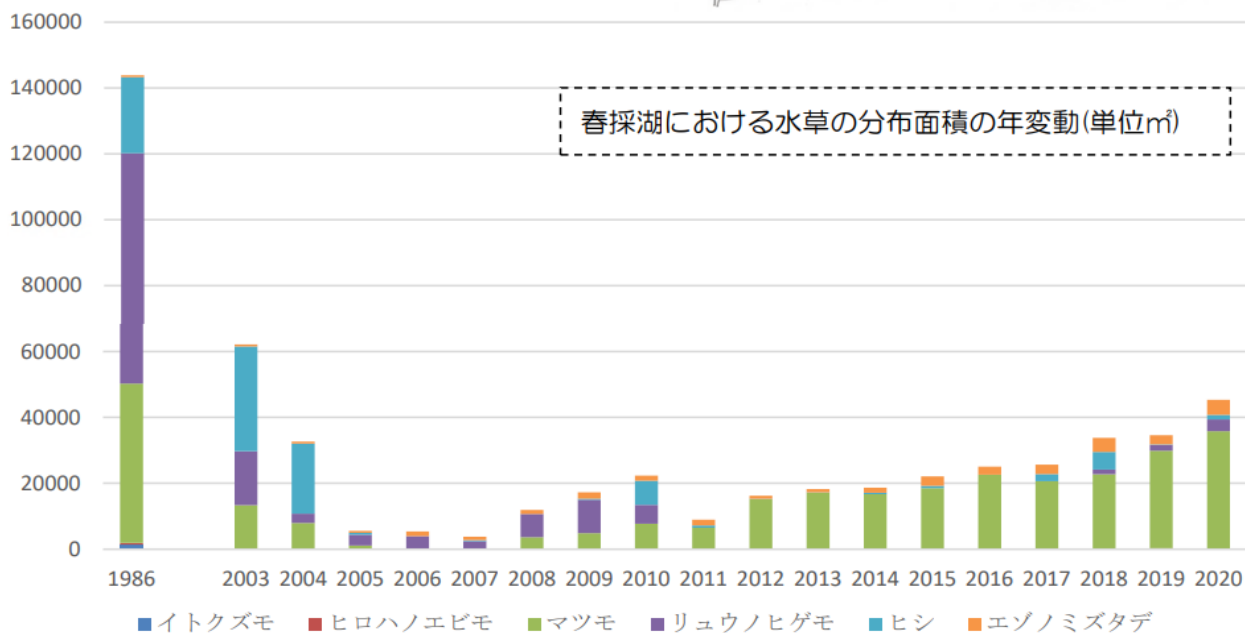


写真3. リュウノヒゲモの生育状況 (左)

写真4. エゾノミズタデの生育状況 (右)



※「春採湖レポート 2020」より

https://www.city.kushiro.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/004/299/000186683.pdf

図3. 春採湖における水草の分布面積の年変動（縦軸の単位は㎡）2003年～2004年に急激に落ち込んだが、2008年以降はマツモ群落が増加している。